

洛和会京都厚生学校 学校評価 令和4年度自己評価結果

本校が取り組んだ令和4年度の学校運営を振り返り、点検・評価した自己評価結果を以下に取りまとめる。

令和4年度においては、コロナ禍における安心安全な学校運営を重点目標とした昨年度の取組みを継承しつつも、新たに「広報戦略の充実」を重点的に展開することとした。

右肩上がりであった看護師等学校養成所施設数は平成30年の863校(令和元年、令和2年も同数)をピークに減少傾向に転じ、令和4年においては、大学が23校増加し303校となったのに対し、専門学校(養成所)は15校減少して543校に、短期大学は11校減少して14校となった。こうした現状も踏まえながら、校内評価委員会において以下の評価を行った。

1 基礎データ (令和4年度)

(1) 生徒数

看護学科1年 (定員80名)	看護学科2年 (定員80名)	看護学科3年 (定員80名)	助産学科1年 (定員20名)	合計 (定員260名)
89名	90名	83名	20名	282名

(2) 国家試験合格者数

区分	受験者数	合格者数	合格率
看護学科	75名	73名	97.3%
助産学科	20名	19名	95.0%

(3) 就職率

看護学科	98.7%
助産学科	100%

2 評価項目

(1) 教育理念・教育目的について

本校の教育理念は、「洛和会ヘルスケアシステムの理念(*1)を基盤とし、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持った助産師・看護師の育成を目指す。」及び「豊かな人間性と看護に必要な態度、知識、技術を持った地域医療に貢献できる医療人の育成を目指す。」の2点である。

また、教育目的には

「人間を総合的に理解し、人間愛と人権意識に根差した、対象から信頼される専門的パートナーシップを備えた医療人を育成する。

専門職として必要な知識及び技術を身につけ多様な対象の個別性に対応できるよう、知識を自ら探求し、解決していく医療人を育成する。」

と定めている。

(*1 洛和会ヘルスケアシステムの理念とは「一 顧客第一に質の高い医療、介護、保育を提供します」「一 すべてのサービスに誇りと責任を持ちます」「一 経営基盤を確立し、個人と組織の向上を目指します」の3点である。)

令和4年度においても昨年同様、本校教育理念、教育目的を浸透させるために「学生便覧」にこれを掲げ、入学式等機会あるごとに生徒への浸透を図ってきた。また、教職員においても事務室や教室への掲示、年度末の教員アンケートでの振り返りなど、常に自覚する環境づくりに努めており、教育理念、教育目的の浸透がみられているところである。

(2) 学校運営について

令和4年度においては、学校長、副校長各1名及び看護学科19名、助産学科4名の教員並びに教務事務担当職員4名、管理部担当職員7名の体制で学校運営を進めた。

その際、学校運営をさらにきめ細かく展開するために「看護学科会議」「カリキュラム会議」「国家試験対策会議」「専門領域別担当者会議」「隣地実習指導者会議」「学内判定会議」を設置し、また、「業務推進・調整会議／退学防止プロジェクト」「図書委員会」「TQM委員会」「インスタグラム・学校だより委員会」「オープンキャンパス委員会」など総合的な連絡調整、企画運営を進めている。加えて、「学校訪問」「出前授業」などの諸活動についても総合的な展開を図ってきたところである。

さらに令和4年度には、重点目標に沿って運営体制に新たに「広報戦略委員会」を組み入れ(7月発足)、前年度の取組みを再点検し、ホームページのトップページ見直し、社会人向けページの追加、インスタグラム発信頻度の増加、進路指導教員向けパンフレットの制作、進学ポータルサイトの活用等を展開した。今後、引き続きの工夫が望まれる。

(3) 教育課程・教育活動について

令和4年度の教育課程においては、改正カリキュラムが適用されたところであるが、シラバスの有用性について教員、生徒の感想を聞いたところ、看護学科で80.5%、助産学科で66.7%、教員で68.4%が役立つ内容だったとの評価を受けた。より生徒の学習理解が深まるシラバスとなるようさらに工夫を凝らす必要がある。また、学生の臨床判断能力・看護実践能力の向上を目指して導入した高機能シミュレーターSCENARIOを用いた演習や、新たに電子黒板を使った授業を展開してきた。引き続き各種IT機器を活用した授業実践に取り組むが、教員の指導力向上に向けて「ICT推進委員会」が進めているICT機器の効果的な活用方法を具体的に動画で教職員に配信する取組みは、教員の授業改善や資質向上にも役立っている。

(4) 学習の到達度について

令和4年度における本校の看護師国家試験合格率は前年度98.4%が97.3%と

1. 1ポイント低下（不合格者2名）し、助産師国家試験合格率も前年度は100%であったが95.7%と4.3ポイントの低下（不合格者1名）という結果となった。新卒学生の全国平均合格率は看護学科で95.5%、助産学科で95.9%であったことから看護学科は全国平均より1.8ポイント高く、助産学科では0.9ポイント低い結果となった。定期的な模擬試験の実施、国家試験対策の強化、ICTによる特別講義の実施、夜間の学習環境の開放などを引き続き実施するとともに、基礎力を高める取組や入学前学習の推奨、さらには教員一人一人が生徒の学習のつまずきに適宜・適切に対応することが肝要である。

また、就職率については看護学科の卒業生で1名が育児に専念することを選択したため98.7%となっている。

なお、看護学科の生徒の退学率は1年生が4.0%、2年生・3年生はともに3.0%、助産学科の生徒の退学率は0%であった。前年度比では、1年生で0.3ポイントの減、3年生で0.7ポイントの減であるが、2年生で1.9ポイントの増となった。

引き続き退学防止対策及びチューター制等による学校サポート事業を充実させていく。

(5) 奨学金など生徒への支援状況について

令和2年度から「大学等における高等教育の修学支援新制度」により給付型の奨学金や授業料等の減免が実施されたところであるが、本校はまだ対象校とはなっていなかったため、令和4年度にこの制度が本校に適用されるよう確認申請を行い、令和5年度から対象校となることが確定した。もとより本校の奨学金制度は、内容・規模ともに極めて充実しており評判も高かったが、世帯収入（家計）に不安を抱える学生にとって、本制度は選択肢の一つとして極めて有効である。

なお、本校の奨学金には、貸与型の「洛和会奨学金」（返還免除の規定あり）や「洛和会京都厚生学校入学時緊急貸与特別奨学金」をはじめ給付型の「矢野奨学金」「特待生奨学金」、さらには、日本学生支援機構の貸与型奨学金、教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）、国の教育ローン、オリコ学費サポートプランなども利用されている。令和4年4月時点で、洛和会関連の奨学金は255人中207人が受給しており全体のおよそ8割となっている。

(6) 教育資材・教育環境の整備について

授業及び演習において必要な設備・備品については、毎年充実を図ってきたところであり、令和4年度においても先の電子黒板や投影用プロジェクター、デジタルサイネージ等の新規購入をはじめ胎児人形や救急蘇生人形の買い替え、採血、注射、分娩などの演習資材を常時備えた。

なお、教員・生徒を対象としたアンケートを見ると、魅力的と思われる本校の特色としてICT環境をあげた教員は47.2%と第2順位に、看護学科生徒では31.4%と第

3順位に位置していた。

しかしながら、本校の魅力として設備・教材をあげる生徒の割合は少ない結果となった。こうした状況や校舎の老朽化・耐震化も踏まえて、教育環境の充実に向けた校舎の新築移転計画を令和4年に発表したところである。また、生徒や教職員へのアンケートなどを行い、今日的な教育環境、生徒の声を踏まえた学校施設づくりに取り組むことを表明した。学校設立40周年となる2年後の竣工を目指し、さらに構想の具体化、情報の共有を進めていく。

(7) 入学志願者増の取組について

本校への入学を希望する生徒数の増加を図るための取組について、以下点検を行う。

オープンキャンパスについては、看護学科で全7回実施（新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、うち3回はオンライン開催）し、250名が参加、助産学科では全3回（うち1回はオンライン開催）で、110名が参加し、計360名の参加者を得た（いずれも同伴者の数は含まない数値）。直近の2年間と比較すると令和2年度は249名（オンライン開催2回）、令和3年度は340名（中止1回、追加開催1回）となっており、令和4年度が最も多くの参加者を得ている。

以上のほか、進路ガイダンスは42回、227名の参加、来校の個別相談には23名に対応した。このほか高校訪問や出前授業、高校の進路指導担当教員を対象とした学校説明会等を開催した。

こうした取組みを経て、令和5年度の入学志願者は、看護学科で定員80名に対して206名、助産学科定員20名に対して110名という結果となった。

(8) 特別活動について

令和3年度は、全国的に新型コロナウイルスの感染状況が収束せず、恒例のイタリアへの研修旅行や水脈祭、都をどり鑑賞会等については中止を余儀なくされたが、令和4年度においては、感染状況の推移を見ながら、三密回避などの十分な感染対策を取ったうえで可能な範囲での再開を目指した。生徒主体の水脈祭については、広く近隣住民への参加呼びかけは自粛し、洛和会ヘルスケアシステム関係者、同窓生、オープンキャンパス来校者等へ対象を絞っての限定的な開催とした。

また、昨年度は校内での実施であったキャンドルセレモニー（看護の誓い）も、近隣文化会館へ会場を戻し、厳粛な中での開催となった。このほか、消防訓練、交通安全教室、20歳の誓い、ホームカミングデー、オンライン父母会等を催した。

(9) 地域・社会への貢献、他機関との連携状況について

本校においては、地域医療の中核を担う総合病院として地域とのかかわりを重視してきた。高校への出前授業や保育所での手洗い指導などを従来から行っていたが、新たに地

元中学校へ赤ちゃん人形などの教育資材を貸出し、地域の保健センターとともに特別授業の支援を行った。

また、地域の図書館で「地域と看護～ナイチンゲールの夢」と題した生涯学習講座の講師を務め、看護師養成の歩み等を語り好評を博した。

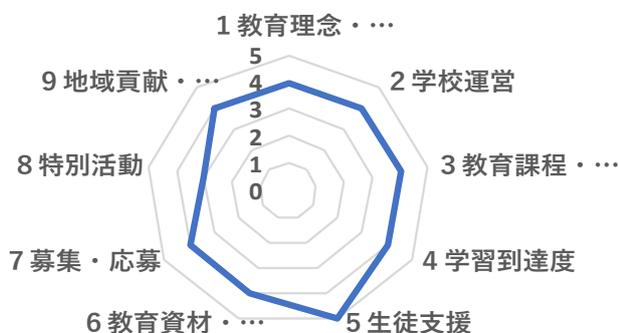
地元でのボランティア活動としては、JR 山科駅において山科警察署とともに「痴漢撲滅啓発活動」を行った。

今後とも地域の諸機関との連携により、相互に協調・協働して看護にかかわる専門学校ならではの取組みを引き続き発信していくことが必要である。

3 レーダーチャート

項目

1 教育理念・教育目的	4
2 学校運営	4
3 教育課程・教育活動	4
4 学習到達度	4
5 生徒支援	5
6 教育資材・環境	4
7 募集・応募	4
8 特別活動	3
9 地域貢献・機関連携	4



以上、「洛和会京都厚生学校 学校評価実施要綱」に基づき、令和5年6月19日に校内評価委員会を開催し、令和4年度の自己評価結果を取りまとめた。

項目ごとに校内委員会において5段階の評定を行ったところ、上記の結果となり、平均値は4.0となった。

本評価結果についてはホームページ若しくは刊行物等により公表するとともに「学校関係者評価」を実施し、さらなる点検・改善を図るものである。

(参考)

校内評価委員会

令和5年6月19日

洛和会京都厚生学校 校長、部長（看護学科長）、助産学科長、看護学科副学科長、管理部長